様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　5　月　25　日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：　2006　～　　2009
課題番号：　18720027
研究課題名（和文）　『ゴーディズ・レディズ・ブック』における良き女性とファッションの表象
研究課題名（英文）　The representation of the good woman and fashion in "Godey' s Lady's Book"

研究代表者
平芳　裕子（HIRAYOSHI HIROKO　）
神戸大学・人間発達環境学研究科・講師
研究者番号：50362752

研究成果の概要（和文）：19 世紀アメリカの代表的女性誌である『ゴーディズ・レディズ・ブック』の分析を通じて以下の点を明らかにした。まず、同誌はヨーロッパの最新流行の受容と改変を通じて「フィラデルフィア･ファッション」というアメリカ型ファッションを作り出したこと。次にファッション・プレートの掲載を推進し、アメリカ型ファッションの価値を高めていったこと。また、ファッションの推進を家庭装飾の意義と重ね合わせることで、「自他を飾る行為」を女性の仕事として位置づけたことである。

研究成果の概要（英文）：By examining the discourse and imagery in "Godey's Lady's Book," the most popular women' s magazine of 19th century America, my research has clarified several important points. First, the magazine created an American type of fashion, dubbed "Philadelphia Fashion," by modifying the latest European trends. Next, the magazine attempted to improve the reputation of American fashion through the use of fashion plates. Last, the "act of adorning oneself and their surroundings" came to be seen as one of women's most important jobs after the magazine persuaded its readers that ornamenting one's body was just as significant as decorating their house.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	0	0	0
2007 年度	500,000	0	500,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	1,500,000	300,000	1,800,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学／美学・美術史
キーワード：表象文化論、ファッション文化研究

１．研究開始当初の背景

『ゴーディズ・レディズ・ブック』は多彩なテーマを掲載した総合女性誌の先駆であり、幾多の女性誌が出版された 19 世紀東部アメリカにおいて、異例の発行部数と継続年数を誇った雑誌でもある。そのため同誌はこれまで、19 世紀東部アメリカにおける女性の

生活、教育、経験を知る貴重な手がかりとして、教育学や家政学、社会学の分野の研究対象として取り上げられてきた。とりわけ「ファッション」というテーマを好んで掲載した『ゴーディズ・レディズ・ブック』は、服飾研究においてもアメリカの服飾史を再構成する手がかりとして着目されてきた。ところが、服飾研究以外の研究分野はファッションというテーマに関心を示さず、服飾研究の多くはファッション・プレートの発展に伴う服飾様式の変遷を明らかにすることにとどまっている。しかしながら同誌は、ファッション雑誌登場以前のアメリカに出版された女性誌として「ファッション」がいかに「女性の領域」のなかに取り込まれ、女性的なるものと見なされるようになったのかを鮮明に描き出している。にもかかわらず、ファッションに関するテーマやファッション・プレートを、この雑誌の内在的言説との関わりおいて考察する研究はこれまで存在しなかった。そこで本研究において、「ファッション」がいかに言説化され視覚化されることで 19 世紀アメリカの女性誌において価値を付与されてゆくのか、考察を進めるにいたった。

２．研究の目的

本研究は、19 世紀アメリカの代表的女性誌である『ゴーディズ・レディズ・ブック』を対象として、パリやロンドンからもたらされた最新流行が東部アメリカのアングロサクソン・プロテスタントの思想文化を融和させながら、ヴィクトリア朝時代アメリカの身体様式や女性像を表象する「ファッション」としていかに言説化・視覚化させられたのか、そのプロセスを明らかにすることを目的としている。とりわけ、1830 年の創刊から 19 世紀半ばまでの時代に焦点を当て、同誌に掲載された多彩な記事―ファッション・プレートのみならず、物語やエッセイ、裁縫記事やレシピなども含めたさまざまなテーマに関する言説とイメージを通時的かつ共時的に考察することによって、各時代に浮き彫りとなる問題を検証し、議論の歴史的展開を明らかにするものである。すなわち、パリの最新流行の流入とともにアメリカのファッションが差別化される 1830 年代、女性の道徳に反するものとして「ファッション・プレート」の是非が議論される 1840 年代を経て、家事のプログラムの一環として「ファッション」が組み込まれる 1850 年代にいたるまで、この女性誌において「ファッション」がいかなる言説やイメージのもとに価値を付与され、女性の領域に取り込まれてゆくのか、そのプロセスを明らかにする。この試みはまた、近代社会において構築された「ファッション」と「女性」との関係性の一側面を明らかにすることでもある

３．研究の方法

本研究の遂行のための一次資料は、19 世紀アメリカの女性誌『ゴーディズ・レディズ・ブック(Godey’s Lady’s Book)』である。同誌の七十年近くに及ぶ出版期間のうち、とりわけ 19 世紀前半の期間（1830 年創刊号より 1850 年代初期）を対象とし、次の調査を行う。同誌は一号につき約 60-100 ページの月刊誌であるが、同誌の多様なジャンルにわたる掲載記事を精査し、ファッションおよび関連テーマの記事の選択と収集を行う。なお、同誌には現在、雑誌原本とマイクロフィルム資料が存在しているが、ファッション・プレートなどの彩色資料は原本をもとに調査を行う。

次に、『ゴーディズ･レディズ・ブック』と同時代に欧米で出版された女性誌(“The Lady’s Magazine,” “La Belle Assemblée,” “Atkinson’s Casket,” “Graham’s Magazine” 等)を、該当記事の比較考察の対象として調査･収集･考察する。さらに、『ゴーディズ･レディズ･ブック』を対象とした(主としてアメリカで出版された)学位論文・研究論文・書籍、19 世紀アメリカ文化史関連およびファッション史の研究論文・書籍等の二次資料における議論をふまえた上で、『ゴーディズ･レディズ･ブック』の各時代において導きだされる固有の問題を考察する。

４．研究成果

(1) 主な成果

19 世紀前半の『ゴーディズ･レディズ・ブック』におけるファッションをとりまく言説やイメージの考察を通じて得られた成果は、以下の４本の研究論文としてまとめられた。研究全体における各研究論文の位置づけ、ならびに各研究論文の要旨は以下の通りである。

①「ファッション史の相対化の試み―『ゴーディズ･レディズ･ブック』を手がかりに」

■ 研究全体における本研究論文の位置づけ：ファッション史における『ゴーディズ･レディズ･ブック』研究の意義について論じる。

■ 要旨：従来の服飾史及びファッション史において「ファッションの歴史」とは「流行のスタイルの歴史」と見なされてきた。しかし「ファッション」という言葉の概念の歴史的変容を考慮するならば、その歴史とは「ファッション」と見なされるものがいかに文化的に構築されたのか、そのプロ

セスを記述するものであると考えられる。ここで従来の学問的枠組を問い直し、既存の「ファッションの歴史」を相対化するために有効となるのが、19 世紀アメリカで出版された女性誌『ゴーディズ･レディズ･ブック』である。その理由は、まず 19 世紀を考察することによって、女性服発展の歴史と見なされてきた近現代ファッションの前提を問い直す試みとなること。次にアメリカを対象とすることによって、パリ・ファッションを中心に記述されてきた歴史に対してファッションの民主化の一モデルを提示する試みとなること。そして衣服ではなく女性誌を考察することによって、雑誌という言説空間において近代的女性像がいかに構築されたのかを辿ることが可能となるからである。さらに 19 世紀アメリカという一時代一地域のファッションの特殊性を明らかにするだけではなく、近代におけるファッションと女性との関係性を考察する手がかりとなるからこそ、ファッション研究に新たな視座をもたらすと考えられる。

②「フィラデルフィア･ファッション―『レディズ･ブック』における良き女性の表象」

■ 研究全体における本研究論文の位置づけ :『ゴーディズ・レディズ・ブック』の前身『レディズ・ブック』(1830-37 年)において、ヨーロッパとの差別化を通じて「フィラデルフィア･ファッション」がいかに言説化され、良き女性の行いと見なされたのかを考察する。

■ 要旨 :『レディズ･ブック』は 1830 年にフィラデルフィアでルイス･ゴーディにより出版された女性誌である。同誌は 1837 年に『ゴーディズ・レディズ･ブック』と改称したのち 19 世紀アメリカの代表的女性誌として発展するが、他誌からの転載も含まれる『レディズ･ブック』の重要性がこれまで注目されたことはなかった。しかしながら同誌は創刊当初からファッションに関するテーマやファッション･プレートを取り上げ、東部アメリカにおける流行の伝達に大きな役割を果たしたと考えられる。『レディズ･ブック』は、パリやロンドンの最新流行を伝達し、ヨーロッパのレディをモデルとしてダンスや音楽などの作法を教示した。その一方で、妻として母として女主人として、すなわち家庭人としての女性の責務を説いた。そして女性の良き行いを、外見を通して表現するよう奨励したのである。同誌はヨーロッパのファッションに対して、女性の内面の表現としての「控えめな装い」を「フィラデルフィア･ファッション」として言説化･視覚化した。「こころの飾り」としてのファッションは、逆説的にも“飾らない装い”であることによって初めて認められるものとなったのだ。

③「『正統なるファッション』とは―『ゴーディズ･レディズ･ブック』のファッション･プレートをめぐる言説」

■ 研究全体における本研究論文の位置づけ : 1837 年から 1840 年代の『ゴーディズ・レディズ･ブック』におけるファッション・プレートをめぐる議論を通じて、ファッションがいかに正当化され価値化されたのか、そのプロセスを考察する。

■ 要旨 :『ゴーディズ・レディズ･ブック』は 1830 年の創刊当初よりファッション・プレートを掲載し、その技術的・芸術的向上に尽力した女性誌である。ところが同誌の編集後記を辿ってみると、ファッション・プレートがすべての読者に受け入れられていたわけではなかった事実が明らかとなる。批判の直接原因は稚拙な描写にあるが、その背景にはファッション・プレートによる消費の煽動、モラルの低下が危惧されたと推測される。同誌はそこで、ファッションを支持する女性読者からの手紙を掲載し、物語のなかで流行に惑わされずに信念を持った女性の装いを描写することで、ファッション・プレートの有益性を主張した。さらにファッション・プレート自体の装飾性を高め、女性が室内を飾るにふさわしい「絵」とする一方、ヨーロッパにモデルを見立てつつ差別化を試みることによって、ファッション・プレートにおけるアメリカ的なるものの正統性を言説化した。いまだ産業革命の影響が本格化する以前、同誌は読者に配慮を払いつつも時には戦略的に仕掛けることで、ファッション・プレートの掲載を正当化し、ファッションの価値を確たるものとしたのである。

④「１９世紀アメリカにおける女性と装飾―『ゴーディズ・レディズ･ブック』を通じての考察」

■ 研究全体における本研究論文の位置づけ : １9 世紀アメリカの女性誌『ゴーディズ･レディズ・ブック』において、「ファッション」の正当化とともに、身体だけでなく身辺や室内を飾る「装飾」がいかに女性の仕事として言説化されてゆくかを考察する。

■ 要旨 : 19 世紀アメリカの代表的女性誌である『ゴーディズ・レディズ・ブック』の、とりわけ 1830 年代から 50 年代初頭の言説とイメージの分析を通じて、ファッションの正当化と家庭装飾が推進とともに、自他を飾る行為が女性の仕事としていかに意味付けられてゆくのか、そのプロセスを考

察する。同誌は創刊当初より、ヨーロッパの最新流行に対して、女性のこころの表現としての控えめな装いを「フィラデルフィア･ファッション」と名付け、視覚化した。そして女性が自身の身体を飾るように、手作り装飾品を制作して室内を飾り付けることを奨励した。さらに「コテージ・モデル」と題した記事を掲載し、理想的な住まいのあり方を提示しながら、家族とともにある理想的女性像を再現したのである。「飾る」とは、家を中心に存在する女性が空間を私化し、女性の領域を拡張してゆく行為であり、外の社会に対して内なる快適な家庭を作る試みであると見なされた。そのような女性の仕事は 19 世紀アメリカにおいて、同誌の言説によって強力に推進された。『ゴーディズ･レディズ・ブック』は、近代的女性像の形成されるプロセスをまさに縮図として提示しているのである。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけ

服飾史及びファッション史においては、これまでほとんど考察の対象とされることのなかった 19 世紀アメリカのファッションとそれを取り巻く文化的状況を明らかにした。特にフランスのファッションを中心とする服飾史・ファッション史の影響を受けた日本では、開拓時代・奴隷制時代・20 世紀の既製服時代を除くアメリカのファッションが言及されることは稀であり、本研究はファッション研究における新しい方向性を切り開くものである。

また、アメリカ文化研究という点においては、これまで文学、映画、演劇、美術、写真などもジャンルが主流を占めるなかで、ファッションはあまり注目されることがなかった。ことにアメリカ本国以外では、同国のファッションはパリ・スタイルの亜流と評価される傾向にあるがゆえに、アメリカ服飾史という研究分野を超えて同国のファッションが研究されることはほとんどなかったと言って良い。そのなかで本研究は、西洋近代のファッション文化の歴史的な形成過程において 19 世紀アメリカを捉えることで、近代ファッションの成立において同国が果たした歴史的重要性を明らかにしたと言える。

また『ゴーディズ・レディズ・ブック』研究においては、19 世紀アメリカ女性の教育と道徳をテーマとした教育学的視点、19 世紀アメリカの代表的メディアとしての同誌に対する社会学的視点からのアプローチが主流を占めてきた。しかし『ゴーディズ・レディズ・ブック』の多彩な掲載記事を「ファッション」というテーマから総合的に読解した試みはこれまでに無いものであり、本研究は「ファッション」が「女性の領域」へいかに結びつけられたのか、同誌の言説とイメージの分析を通じて近代社会における「ファッションと女性」との関係性の構築の一プロセスを明らかにした。

それゆえ本研究は、さまざまな研究領域において考察対象とされながら、これまで看過されてきた主題を領域横断的に取り上げることによって、表象文化研究の更なる発展をめざす、きわめて重要かつ独創的な研究であると位置づけることができる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　3 件）

(1) 平芳裕子「ファッション史の相対化の試み―『ゴーディズ･レディズ･ブック』を手がかりに」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科 研究紀要』（査読有）第３巻第２号、pp. 87-94、2010 年 3 月。

(2) 平芳裕子「『正統なるファッション』とは―『ゴーディズ･レディズ･ブック』のファッション･プレートをめぐる言説」『美学』（査読有）第 235 号、pp. 84-97、2009 年 12 月。

(3) 平芳裕子「フィラデルフィア･ファッション―『レディズ･ブック』におけるよき女性の表象」『服飾美学』（査読有）第 47 号、pp. 55-72、2008 年 9 月。

〔学会発表〕（計　1 件）

(1) 平芳裕子「ファッション･プレートは何のために -1837 年から 1847 年の『ゴーディズ･レディズ･ブック』における正当化の言説-」服飾美学会２００８年度大会（於お茶の水女子大学、5 月 20 日）

〔報告書〕（計　1 件）

(1) 平芳裕子「『ゴーディズ・レディズ・ブック』における良き女性とファッションの表象」平成 18-22 年度科学研究費補助金若手研究（B）研究成果報告書（2010 年 3 月）

〔図書〕（計　0 件）

６．研究組織

(1) 研究代表者

平芳　裕子（　HIRAYOSHI HIROKO　）
神戸大学・人間発達環境学研究科・講師
研究者番号：50362752